

# SC リレートーク

## 取材編#11

事務局が現地取材した内容をお伝える  
取材編、第11号です。  
今回は、地域サロンにゲーム（いわゆる  
eスポーツ）を導入した由利本荘市の取組  
を取材しました。

### 今回の取材内容／

サロン×ゲームの取組（由利本荘市社協）

## 「機材があればできる？」

一通いの場でのeスポーツを“続ける”ためのSCの伴走

#ゲーム

#ハードルを下げる

#フィードバックの重要性

近年、高齢者の集う場で家庭用ゲームを活用する事例が全国的に増えています。集まるきっかけづくりや多世代交流など、その活用方法は様々ですが、一方で「機材さえ揃えれば始められるのでは？」という声も聞かれます。

しかし実際には、現在の高齢者世代にとってゲームは馴染みが薄く、楽しんで取り組むためには工夫が必要です。

今回は、通いの場（サロン）にゲームを取り入れた由利本荘市岩城地区の取組を取材しました。

SCがどのように関わり、どのような手間や工夫を重ねながら活動を継続しているのかを紹介します。



（写真）時にはゲームと一緒にプレイしてサポートする岩城地区担当の早川SC（写真左）

## ◆きっかけ — SCの関心から始まった取組

岩城地区の取組は、地区担当の早川SC（由利本荘市社協）が県社協（以下「本会」）のeスポーツ関係の事業に関心を持ち、参加したことから始まりました。

早川SCは「少し変わったことを取り入れてみたい」と考え、サロンメンバーに声をかけて、一緒に体験会に参加。

リズムゲームやドライビングゲームなどを体験した参加者からは、

「初めてだったが楽しかった」

「皆にもやってもらいたい」

といった声が上がリ、サロンでの活用を検討することになりました。



↓裏面に続く↓

## ◆SCの伴走支援

早川SCがまず活用したのは、本会の出前講座でした。サロンの開催日に合わせて講座を手配し、参加者が実際にゲームを体験できる機会をつくりました。

ゲームに慣れていない世代にとっては苦手意識もあり、参加のハードルをどう下げるかが重要となります。

早川SCは、初めての人にも声をかけて参加を促し、できたことを前向きに伝えるなど、安心して取り組める雰囲気づくりを行いました。

例えば、ステージクリアの成否だけでなく、前回からの変化やタイミングの良さに着目して評価するなど、小さな成功体験を積み重ねる関わりが見られました。

こうした関わりは一度で終わるものではなく、活動のたびに繰り返し行う必要があります。

## ◆地域での継続に向けて

現在もサロンでは活動が継続されており、講師や本会職員、大学生などが関わることで、安心して参加できる環境が整えられています。一方で、将来的な自立運営を見据え、住民自身が機材の設置や設定を学ぶ取組も進められています。



(写真) 本会職員から片付けの説明を聞く  
岩城地区の住民の皆さん

早川SCは、ゲーム活用の良さとして「高齢者にとって未知で新鮮な体験であること」を挙げますが、「機材の準備や設定、特に設置の手間」が大きな課題であると話します。

実際、活動を継続するためには、機材の準備や片付けを誰が担うか、操作に不慣れな参加者をどう支えるかといった点が重要になります。

岩城地区でも現在、機材の設置や片付けを住民自身で担えるようになることが課題となっており、早川SCが地域の状況に応じた関わりを続けています。

活動を重ねる中で、最初は戸惑っていた参加者が他の人に操作を教える姿も見られるようになり、会場には自然な交流が生まれています。

新しい活動は導入することよりも、地域の中で無理なく続けられる形をつくることが重要です。本事例は、その過程を丁寧に積み重ねている取組と言えます。

## ◆早川SCの取組ロードマップ

段階	内容	SCの関わり
①関心	SCがeスポーツ事業を知る	情報収集
②体験	サロンメンバーと体験会参加	地域へ声掛け
③導入	出前講座を活用	日程調整・準備
④活動	サロンでゲーム実施	声掛け・雰囲気づくり
⑤継続	参加者が慣れてくる	継続支援